

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

令和5年度第5回岩手県大規模事業評価専門委員会

2 開催した日時

令和6年1月18日（木）10：00～11：10

3 開催場所

エスポワールいわて3階特別ホール（盛岡市中央通1丁目1-38）

4 出席委員

加藤徹委員長、狩野徹委員、小井田伸雄委員、竹内貴弘委員、松木佐和子委員、松山梨香子委員、山本英和委員（8名中7名出席）

5 専門委員会議題等

（1）議題

大規模施設整備事業の事前評価について〈継続審議〉

岩手県福祉・消費生活関連相談拠点施設（仮称）整備事業（盛岡市）

- 政策企画課から前回の審議概要及び県民意見募集の実施結果の概要について説明した後、保健福祉企画室から事業内容についての補足説明を行った。
- その後、質疑等を行った結果、継続して審議を要する事項及び追加説明が必要な事項はなく、本件についての審議は終了となった。

■ 専門委員からの主な質疑等は次のとおり

（質疑）

資料1の2ページ目の⑧の質疑について、心のケアに配慮した構造となっているが、構造だとRC造や木造をイメージしてしまうので、構造ではなくプランという表現にしてほしい。

（回答）

本委員会の議事録で明記することで対応したい。

（質疑）

家庭内DV加害者が施設に探しに来た場合、被害者を守れる構造になっているか。

（回答）

現在と同じく、警備員を配置するなどして対応するが、守れる構造にするよう設計の際、十分に配慮したい。

（質疑）

資料3の3ページ目に相談の事例が記載されているが、相談件数について定量的に把握しているのであれば教えてほしい。

（回答）

全体の相談のうち、2割程度が経済的な問題を抱えている。

(質疑)

資料3の3ページ目、国では基礎自治体による重層的な支援体制整備を推進とあり、5ページ目には支援体制の重層化が図られると記載されている。国からはどのように言われていて、県としてはどういう解釈でこのような記載にしたのか、教えてほしい。

(回答)

これまでの相談体制は児童や障がい者など属性別にそれぞれ整備をしてきた。ただ、例えば生活困窮といっても障がいや高齢化にも関係しているなど、複合的な要因が絡む場合がある。属性別の仕組みを生かしながら、複数の悩みを持った世帯への問題を解決するため、横ぐしで連携できる体制を整備していくということが重層的な支援であると解釈している。

(質疑)

資料3の4ページ目、合築の場合と単独の場合とで整備費を比べている。福祉総合相談センターの費用は変わらないが、県民生活センターの費用は変わっている。どのような計算で算出したのか。

(回答)

トイレや会議室等の共有部分は福祉総合相談センターに寄せて試算しており、単独で建築した場合、県民生活センターに共有部分が追加されるため、県民生活センターの整備費のみが増えている。

(質疑)

資料3の5ページ目に盛岡市施設との連携とあるが、具体的に教えてほしい。

(回答)

盛岡市は児童・老人福祉センターと母子生活支援施設の合築を予定。母子生活支援施設では母子家庭の自立を支援する施設であり、福祉総合相談センターの児童相談や女性相談との連携が考えられる。

<大規模事業評価に係る答申案について>

【大規模施設整備事業・事前評価】

○岩手県福祉・消費生活関連相談拠点施設（仮称）整備事業（盛岡市）

「事業実施」とした県の評価は妥当と認められるとの結論に至った。

(2) 会議資料

○資料 No. 1 大規模事業評価専門委員会における審議概要

○資料 No. 2 大規模事業評価についての県民意見募集の実施結果

○資料 No. 3 大規模施設整備事業事前評価 補足説明資料

岩手県福祉・消費生活関連相談拠点施設（仮称）整備事業（盛岡市）

○参考資料 答申書（案）及び審議結果報告（案）

※ 会議資料及び会議録については、行政情報センターへ配架するとともに、県のホームページに掲載します。

6 傍聴人数

報道1社、傍聴者1名

7 問い合わせ先

〒020 - 8570 盛岡市内丸 10 番 1 号

岩手県政策企画部政策企画課 TEL : 019-629-5181 FAX : 019-629-6229

8 ホームページアドレス

<https://www.pref.iwate.jp/kensei/seisaku/hyouka/hyoukasenmon/1065005/1071394.html>

9 その他

政策等の評価について御意見がありましたら、上記問い合わせ先まで FAX 等でお寄せください。今後の専門委員会での審議の参考とさせていただきます。